

### 第3回 府中市商店街振興プラン検討協議会 議事要旨

日 時	令和3年6月29日(火) 18:00～19:45	
場 所	府中市役所北庁舎3階第三会議室	
委 員	委員 井上博正 氏	委員 郭東仁 氏
	委員 川口宣男 氏	委員 筒井孝敏 氏
	委員 廣瀬健 氏	委員 丸山悦子 氏
	委員 宮沢ゆい 氏	委員 森田俊朗 氏
	委員 森本憲 氏	
	(計9名)	
	: 会長、 副会長	
欠席委員	なし	
傍聴者	なし	
事務局職員	産業振興課商工係	
その他	むさし府中商工会議所 職員2名	
議題	1. 開会 2. 第2回協議会の議事録について 3. 協議事項 現状と課題 次期府中市商店街振興プランの施策の方向性 4. 報告事項 ヒアリング調査の実施状況について 5. その他連絡事項	
配付資料	資料1	第2回府中市商店街振興プラン検討協議会 議事要旨
	資料2	府中市の商店街を取り巻く現状と課題(表面) 現行の府中市商店街振興プランと次期府中市商店街 振興プランの施策体系(裏面)
	資料3	府中市商店街振興プランヒアリング調査実施状況
	資料4	施策一覧表

## 議題（詳細）

### 1．開会

- 廣瀬会長 令和3年度第3回府中市商店街振興プラン検討協議会を開催したい。議事の円滑な進行に努めていきたいので、皆さん、ご協力いただきたい。
- 事務局 本日の委員の出席状況の説明を行った。委員全員が参加しているので、本日の会議は有効に成立。傍聴希望はなし。

### 2．第2回協議会の議事録について

- 廣瀬会長 議事要旨をご確認いただいた中で、修正すべき点や気づいた点があれば、ご意見をいただきたい。

#### （質疑なし）

- 廣瀬会長 資料のとおり議事録の内容を確定したい。事務局は速やかに公開の手続きを行っていただきたい。次に進みたい。

### 3．協議事項

#### ①現状と課題について

- 廣瀬会長 事務局から説明をしていただきたい。
- 事務局 事務局より「現状と課題について」について説明を行った。
- 廣瀬会長 委員の皆さんからご意見をいただく前に、各商店街の連合体である府中市商店街連合会の事務局があるむさし府中商工会議所さんにも、府中市の商店街を取り巻く現状と課題について、感じられていることをお伺いしたい。
- むさし府中商工会議所 同商工会議所が作成した資料を配布し、府中市の商店街を取り巻く現状と課題について説明を行った。
- 廣瀬会長 何か意見や質問はあるか。
- 井上委員 資料2だが、課題に「商品販売の継続性に課題があることがわかっています」とあるが、要は売れないから継続できない。ウチの場合でいえば、商品1つ作るのにだいたい100万円かかる。期間は、早くて6か月、長いと2年くらいかかる。それでも、3割の打率には届かない。2割5分くらい。正直、短期的な話ばかりなので、非常に厳しいと思う。また、「一店舗ですべての買い物ができないから」とあるが、商店街の一店舗ですべての買い物ができる訳がない。こういうアンケートの取り方をすること自体おかしいと思う。これは商店街一か所ということだと思う。下にある「キャッシュレス決済を促す支援が求められます」とあるが、別の資料では3%の手数料を取られるとある。3%になったのはつい最近であり、それまでは4～5年前までは5%が当たり前だった。ウチの店でいうと、

売上の中の25~30%くらいについては、手数料を取られてしまう。そうすると、値上げしないとやっていられない。そのあたりを、どのように考えているのか。3%が当たり前の数値になってしまっている。アメリカ並みに1.5%くらいに持っていかどうか。アメリカの場合には、分割払いをやっていて、1.5%になっていると聞く。日本の場合は一括。考え方の土台を変えていかないといけないと、相当厳しい。先ほどの商品開発の話もそうだが、これは昔でいえば、一店逸品運動。あれも、1,000個出して3つうまくいけば良いくらいのやり方。そのあたりを理解しているのか。やろうとすると、それなりの経費はかかる。また、リーダー養成という話が出てきているが、リーダーになる年齢の人がいない。どうしたら良いのか、という感じになってしまっているところがあるのではないかと。今は、日本中で50代までが青年、60代になってから壮年になる。育成するといっても、20~30代の人たちが、商店街を含めて、全ての業種に来てくれていることが、既にニュースになってしまう。そのあたりをどう考えていけば良いのか。

廣瀬会長  
森田委員

課題の共通認識は、皆さん同じなのか。副会長、何かあるか。

生鮮三品は悩ましい。肉、野菜、魚の店をそれぞれ1店舗ずつ連れてくることは非現実的な話である。一方、スーパーも出口がないという話を聞く。大きなスーパーも居場所をなくしている。逆に、食品に特化しているスーパーは、まだ力を残していると聞く。なので、スーパーと商店街という対立構造ではなく、例えば、食料品スーパーに集客してもらい、周囲にある直接スーパーと競合しない店をぐるっと回ってもらうとか。そうした形で共存共栄を取ることが必要ではないか。中型スーパーとの連携で、新しい生き方を探していくことが必要なのではないか。生鮮三品がないというのは仕方ない。個店でやってくれというのは非現実的である。今あるカードの組み合わせで、何か出口がないものか。

筒井委員

資料2については、あまりピンとこない。ちょっとずれている気がする。1回目のアンケートで出ていたのが、商店街を使うのは、近くて便利だからということ。お医者さんや薬屋さんなど、必要なものがあるから使うという回答だった。商店街で全て揃うという話ではない。商店街には、たくさんの方が、色々な商売をしているが、消費者ニーズがどこにあるのか、そこを分析した方が良いのではないかと。前回、やわらか飯の話をしたが、やわらか飯を探している人たちがいる。我々の商店街には、宅配で商品を届ける店があるが、病院や、歯の悪い人にやわらか飯を届けている。場合によっては、夜も届けている。消費者からすると、そこから商品が届くだけでは満足できない。商店街の店にやわらか飯がありますというステッ

カーを貼ってもらえば、仮に扱っている商品が一品であっても、お客さんは何があるのかと訪ねてくるような取組ができると良い。そういうことでいえば、先ほどの商品開発の話も、皆で一緒に作るのではなく、例えば、やわらか飯をお惣菜屋さんや飲食店が作ったとすれば、消費者が興味を持ってきてくれるという恰好もありかなと思う。具体的には、前歯だけでも噛み切れる総菜であるとか、できあがった飲食だとか。それを作れば、訪ねてくれると思う。こっそりやるのではなく、ステッカーを貼ったりすれば、それが噂を呼び、人が来ると思う。そのあたりが差別化や消費者ニーズに繋がると思う。そういう取組と一緒にできる共同体はあっても良いのではないか。

廣瀬会長 課題1の「個店が持つ特徴を十分にPR・発揮できるように」のところに、「消費者ニーズを的確に捉えて」「高齢者向けのサービス」「身近にある便利さ」など、強みやニーズを積極的に伸ばすということを加筆するのが良いのではないか。

筒井委員 今は高齢者の話したが、これが離乳食であれば消費者ニーズも変わる。ステッカーなどを使って話題性があれば良い。扱える個店の全てに貼れば良いだけの話。例えば、お惣菜や飲食でなかったとしても、それを置いているというステッカーが貼ってあれば、お客さんが来て「何ですか」と聞かれれば、取り寄せであると話すことができる。極端な話、電気屋さんにあっても良い。商工会議所からはクレームがくるかもしれないが、消費者ニーズに合わせて、商店街の皆でできると良いという話。

廣瀬会長 課題の中で、そうしたことが拾える書き方を検討していただくと良い。課題3のところに触れていない話として、3つ話がある。1つ目は、商店街の事務局がない、専従者がいない点。2つ目は、路面店の減少。一階部分が店舗になっていない点。空き店舗対策にもつながる話だと思う。最後に、46商店会では多いのではないかという話。既に統廃合している商店街もあるということだが、持続可能な商店街づくりという点で、会員の減少や後継者の問題のほかに、商店会自体の連携、統合を含めた施策も課題だと思う。その3点を加えていただく必要があると感じた。

筒井委員 キャッシュレス決済についてだが、ニーズがあればOKだが、ニーズから外れたことをしても、持続できない。後継者の問題も、何とかしようと言われても、おそらく何とかできない。少子化で、子どもたちが来ないなら来ないでも良い。これからは定年もはずれていく企業もあるようなので、働けるのであれば働いて良いという時代にもなってきた。そのあたりを加味して、今までとは違う社会ができる感じがしている。残りは、具体的な施策のところまで話をします。

廣瀬会長 皆さんからいただいたご意見を活かして、今後の施策体系づくりをして  
いただきたい。それでは、次の議題に進みたい。

(2)次期府中市商店街振興プランの施策の方向性について

事務局 事務局より「次期府中市商店街振興プランの施策の方向性について」に  
ついて説明を行った。

廣瀬会長 何かご意見・質問はあるか。

筒井委員 空き店舗への支援を行うとあるが、具体的にどういう支援なのか。言葉の  
支援なのか、金銭的な応援なのか、どこまでできるのか。

事務局 現状でも空き店舗対策はやっている。例えば、家賃補助やチャレンジショ  
ップの関係で、一定期間、一部費用を補助する事業は行っている。令和2  
年度まで事業としてやっていた。一旦、令和2年度で終了はしているが、  
今後、空き店舗に対して、どのような支援をしていくのかに関しては、  
色々なご意見をいただきたい。既にある空き店舗をどうしていくのかの  
1つの例として、高齢者の居場所、子どもたちの居場所、小さい子どもさ  
んを育てているお母さんたちの居場所のようなものを作っていくことが  
できれば、商店街に新たな客層を呼び込むことができると思う。商店街に  
来るきっかけを作って、そこに来た人たちが商店街で買い物をするよう  
な流れができれば良いと思う。そういう事業に補助を出すことも考えら  
れる。そうしたご意見をいただいて、それをプランの中に入れていければ  
良いと思う。

筒井委員 素晴らしい話だと思うが、補助というのはどこまでの支援なのか。確かに  
ニーズもあるし、良い話だと思う。前に話のあった自転車置き場の整備に  
も支援をしてもらえると非常に良い。言葉で書いてあることは、非常に素  
晴らしいけれども、具体的にどの程度やってもらえるのか。また、リーダ  
ー育成については、ウチの商店街については当てはまらない。これから勉  
強して育成しましょうでは、ウチは無理だと思う。デジタル化は、これか  
らの時代、絶対にニーズがあると思う。前回も話をしたが、たまたま社会  
福祉協議会の11の拠点で、ちょこっとお手伝いという事業がある。場所  
により金額は違うが、犬の散歩や草刈りなどをしてくれる人たちがい  
る。社会福祉側からみれば、居場所づくりになる。また、定年退職したひ  
とたちの中で、特に男性だが、1か月に2回くらいしか会話しないひとた  
ちが活躍する場としたいという考えもある。問題は、サービスをして欲し  
い人と、できる人とのマッチングに時間がかかること。そうした事業をボ  
ランティアポイントとしてやっているところもある。商店会だけのポ  
イントカード事業は、やっているところも多いが、廃れているところも多

い。ところが、ニーズがある事業であれば、可能性はある。ちょっとお手伝いの事業であれば、社会福祉的なニーズを全て取り込んで、獲得したポイントでちゅうバスに乗ることができたり、会議室を借りることができたり等もある。府中市に事務センターがあり、これからスマホを使ってプログラムを作る。北海道はうまくいっている。マッチングは全てスマホでやっている。現在、プレミアムポイントを府中市で考えているようだし、ワクチン接種も接種券がなくても本当はできる。こういったデジタル化を目指すということでも入れてもらうと良い。

廣瀬会長 今回は、「消費促進に向けた ICT 環境の充実」という方向性を示しているだけだが、次回以降、そのあたりについて、より具体的に掘り下げて、事業をご提示いただきたい。

事務局 本日は、基本方針と施策の方向性についてご議論いただき、次回、具体的な事業についてご議論いただきたい。先ほど、筒井委員からご指摘いただいた事業についても次期プランにも反映させていきたい。また、このプランは8年間の計画期間となるので、その中で目指していくものも含めていきたい。予算の関係もあるので、すぐにできる事業とすぐにできない事業がある。今後、中長期的に見て取り組んでいくべきものについても、プランの中には書き込んでいきたい。そうした意味で、様々なご意見をいただいて、どういった事業を掲げていくことが良いのかご意見をいただきたい。

廣瀬会長 具体的には、5にある「消費促進に向けた ICT 環境の充実」や、2の「市民等が訪れたいと思う活気ある商店街の雰囲気づくり」のところに、デジタルプラットフォーム等の内容も少し含んでいくことになるのかなと思う。

井上委員 市の評価はどうなっているのか。一店/一街逸品活動、府中商人塾等、既にやっているが、それらの事業の評価はどうか。できたのか、できなかったのか。できなかった理由は何なのか。そこまでやって評価したことになる。資料4には、その事業が良かったのか、悪かったのか、何も書いていない。お金を捨てたのか、活かしたのか、その評価が欲しい。やりまただけでは評価にならない。事業はやりました、事業を使っていない方が悪いと言われているようなものだ。そうではなく、我々からすると使うべき事業がない。例えば、特産品等開発支援事業で、開発7件、販促5件とあるが、現時点では生きているのか、死んでいるのか。商業祭にしても、枚数を出すのではなく、商店会の売上が上がったのか、上がっていないのか。利益が出ているのか、出ていないのか。そこまでの評価をしないと何の意味もない。商人塾、今はチラシもないが、やらなくなった理由は何な

のか。継続できなかった理由は何なのか。そういう評価が欲しい。普通の会社であれば、どこでもやっている話。そうでなければ、次の話に進めない。空き店舗の対策をやりました、空き店舗は増えたのか、減ったのか。現状の事業の評価がないのに、次のプランを作ろうとしても全く意味がない。カッコ良い書類を作っているだけ。評価は、皆の意見を聞く話ではない。

- 事務局 今日資料では評価ができていないのは確かだが、市として評価していない訳ではない。例えば、特産品については、現在でも事業がある。年に何件かは申請していただいているが、申請件数が少ないという問題はある。周知がしっかりできていない部分はあると思う。
- 井上委員 それを出せば良い。
- 事務局 評価をまとめたものは、次回、提出したい。
- 井上委員 本当は、1回目にその評価の資料がでてきて、その評価が本当に正しいのかどうかを議論した後でない、普通は次のステップには行かない。本来は、評価をした上で次のステップに行く。お金が潤沢にある時代ではない。
- 事務局 ご指摘を踏まえて、次回の協議会には評価を含めたものをお示ししたい。
- 廣瀬会長 まだ、ご発言いただけていない委員の皆さん、いかがか。
- 宮沢委員 どの立場から発言しようかすごく迷っているが、一番気になったところが、2(1)「イベントの開催支援」とあるが、具体的な事業については次回以降のお話だが、どの程度支援していただけるのか。イベントの開催支援として思い浮かぶことは、補助金を出してイベントを開催しやすいようにすること。それを利用する立場で話すと、商店街には、このイベントを企画立案する体力がない。補助金で支援していただけるとしても、補助金申請のマニュアルを読み込める人材が商店街にはいない。今の商店街には、お金も体力もない。そうした現状の中で、どの程度、踏み込んで支援をしていただけるのか。それが非常に気になる。いろいろなりソースがない状況の中で、イベント開催支援と言われても、実施のところはできない。「こういうイベントがありますが、やってみませんか」くらいのパッケージ化をしていないと、実現は難しい。また、どの業種を主体としたイベントなのか、業種を指定していただいた方が良い。現状、商店街では、特定の業種のみが関わるイベントが非常にやりづらい状況になっている。そのあたりも考えていただけると良い。
- 廣瀬会長 課題から出てきているご意見だと思うので、参考にするのか、どこかに盛り込むのか、ご検討いただきたい。
- 丸山委員 資料を一通り読み込んだ時の感想になるが、コロナ禍で消費者の感覚が変わってきていると思う。ただ安ければ良いとか、高くても良いものだと

か、SDGsに関連したものだとか。そうしたもののの方が買うとか。現行プランと同じように、商品・サービスと書いてあっても、その中身は変わってきているのではないかと思う。リーダー育成とあるが、そもそも商店をやる人がいない。後継者がいないことを考えた時、府中には職業訓練校があるが、職業訓練校で学んだら、商店街に空き店舗があるので、こういうことができるよ、という一連の流れを示すことはできないか。商店街の中だけで考えるのではなく、周辺を巻き込んだ話ができる方が良いのではないか。府中は、割と自分で事業をしている方が多いと思う。そういうことアピールしながら、やっていくと良いのではないか。ただ、人材を育成しますとか、ただ空き店舗対策します、という単体の話では、解決できないのではないか。また、先ほどの大型店との共存の話は共感でき、商店街の中だけで何とかするというのは、もう無理なのではないか。スーパーにないものが商店街にあれば、仮に一店舗で買い物がすまなくても買いに行くと。スーパーでの買い物のついでに寄れるようなお店であれば、決して、商店街の一か所で全ての買い物ができなくても、活用すると思う。これまであった意見を全て盛り込めば良い。こういう会議に出ても、いつも上っ面だけ。誰が読むのか、誰が見るのか、それで終わってしまう。今回のプランは、これまでの枠組みを全て取り払って、井上委員が言ったように、評価と結果、あとは具体的に何をしなければいけないのか、それだけで良い。そうすれば、皆理解できる。例えば、イベントに関して、商店街でイベントをやるとなると非常に大変。イベントをする前の資料を書くことも非常に大変。そこまで支援してくれるのかということ、そこまでは全く支援してくれない。先ほど、プランは8年間という話があったが、8年間でまた状況は全く変わる。具体的に落とし込まないと、誰も何も感じないし、誰も読まない。それを非常に危惧する。

川口委員

廣瀬会長

次回の具体的な事業のところ、多くの具体的なアイデアを議論する中で新しく見えてくる方針もあると思う。また、イベントの企画立案と実行の支援というの非常に重要な視点だと思う。

郭委員

我々もデジタル化については非常に勉強した。どこの商店街に行っても使えるような、府中市独自のカードをつくらうと勉強しているが、なかなか実現が難しい部分もあるので、具体化はしていない。是非、こういう機会と一緒に勉強できれば良いと思う。これからは若い人の人口を増やしていかないといけない。そういう若い人が働く場所、子どもを育てる保育所の問題など、いろいろあると思う。そういうことについても、商店街はもっと勉強しても良いのではないか。

森本委員

本来は全ての商店会にヒアリングすべき。商店会側の実情、現状の問題、



消費者の意識、それらをすり合わせながら、プランを作っていくべきだと思う。商店街の体力がなくなっている。イベントの企画立案・実行ができない商店街が多いと思う。体力もないし、資金もない、後継ぎもない。現状として、そうしたところに入ってしまった。そういうことを加味しながら、ヒアリングの結果も入れて、初めて、その先の部分を考えることができると思う。逆にいうと、その部分がなければ、先はない。ウチの商店街でもふれあい祭りというイベントを27年間やってきて、コロナの前にはハロウィンのイベントに衣替えしたりもしたが、コロナがあり中止して、これからコロナが明けても、できるかどうかわからない。1つだけ、8年前からやっている事業があり、それは宅配事業。それは100%助成で、100%だったからこそできた事業。取扱い件数は10件/月くらいに激減しているので細々としているが、続いている。施策というのは、現状の生の声から生まれるものだと思う。

廣瀬会長

ヒアリングの実施状況というのは非常に重要だと思う。同じ課題を抱えている商店会さんもある。商店会の存続についても触れられているので、そのあたりについても、現状の課題として取り上げていただければと思う。私自身、中心市街地の商店街の会長さんと会話する機会が多いが、小規模の商店会さんは負担を感じている。統廃合はなかなか難しいとは思いますが、幾つかのエリアの中で連携をして、1つの事業・企画をやる必要があるのではないか、商店街連合会の中でのブロック化という話で解決できる話もあるのではないかと、という意見もうかがっている。そうした意見についても、プランに反映してはどうかと思う。また、商店街加入のメリットを発信しないと、なかなか商店街に加入してもらえないという意見もある。特に若い店主さんからは、商店街のメリットがわからないという声が出るという話も聞く。新しいお店ができて商店街への加入を勧誘に行っても、なかなか理解してもらえない。商店街に入ることのメリットを情報発信する支援についても、プランの施策の一つとして入れていくことができれば良いのかなと思う。

井上委員

プレミアム券についても、半分くらいは地元の商店街でしか使えないくらいの、大胆なことをしないと何の助けにもならない。市に、そこくらいのことをやる腹積もりはあるのかどうか。

廣瀬会長

ご協議いただいた内容を反映して、次期商店街振興プランの施策の方向性については閉めたいと思う。最後に副会長からご意見をいただきたい。

森田委員

先ほどのやわらか飯だが、高齢者の話だと思っていたが、離乳食と言われると、それもやわらか飯になると思う。商店街だけの話ではなく、府中全体の定住促進策と一緒になのではないか。府中市なので、市長のハンコで全

て横串を刺すことができる。典型的な例は、道の駅。最初は道路屋がドライブインを作ろうとしてやっていたら、そこに店を作ったら地場の野菜が流行るようになり、当初は国土交通省だったが、観光庁が入り、農林水産省が入ってきた。役所は、自分の部署の予算がここに使えるとわかれば、おそらく話に乗ることはできる。そうした観点から、こちらから横串を刺せるような事業の見せ方をする必要があるのではないか。やわらか飯でいえば、離乳食であれば子育ての予算を使える、歯が悪くなった高齢者向けであれば高齢者向けの予算を使える。そのあたり、こちら側が気を利かせて、動く方向に持っていかれると良い。部門をまたいで事業を行うことが、今の時代なのかと思う。施策の方向性の5で多様な消費者ニーズとあるが、全員に100点満点は無理。各商店街で生き方が違う。そこをもう一度整理して、各商店街に合った消費者ニーズを拾えると良い。

廣瀬会長

第4回協議会では、具体的な事業を入れ込んだ形での議論になると思うが、実際に事業を活用するのは商店街になるし、その商店街の中で消費活動を行うのは市民の皆さんになる。委員皆さんからのご意見が、より反映されるように、事務局には工夫していただきたい。それでは、次の議題に進みたい。

事務局

「ヒアリング調査の実施状況について」報告した。

廣瀬会長

今回は、報告いただいたヒアリング調査の結果を活かしながら、施策に基づく具体的な事業を検討していきたい。その他、連絡事項について、事務局からお願いしたい。

事務局

その他連絡事項等について、説明した。

井上委員

国の事業からこそ評価してもらいたい。

事務局

評価については、そもそも現行プランに施策の指標がない点も課題と感じている。この点については、次期プランでは、評価をするための指標をしっかりと設定していきたい。市ができる範囲で、現行プランの評価をしていきたい。今回は7月末の開催を考えている。27日もしくは30日を予定している。基本的には対面を想定しているが、オンラインでの参加形式の併用も考えている。

廣瀬会長

今回は7月30日開催でいかがか。

(異議なし)

廣瀬会長

それでは、今回は7月30日に開催する。これにて終了する。

以上